CBT検討委員会
検討結果報告書

2023 年 12 月

公益財団法人 MR 認定センター

内容（目次）

１. CBT検討委員会の設置に至る背景と目的 ……2

２. 委員委嘱と開催概要 ……2
1）委員委嘱 ……2
2）開催概要 ……3

３. 検討された試験案 ……3
1）試験の全体設計 ……3
2）問題プールの作成 ……5
3）試験科目名（MR総論） ……5

４. 今後の試験委員会の方向性 ……5
1）新試験（CBT開始）準備委員会の設置（2024、2025 年度） ……5
2）新試験制度における試験委員会の役割（2026 年度～） ……6

1. CBT 検討委員会の設置に至る背景と目的

認定試験に関して[1)]、2022 年 4 月「認定試験制度改革検討委員会（委員長：栗原順一　帝京大学名誉教授）」を設置し改定案が検討され 2023 年 2 月に報告書が公表された。認定試験制度改革検討委員会は、受験希望者の受験機会を拡大するために 2026 年度より受験資格を撤廃しCBT[2)]方式で行うことを提案するとともに、試験委員会の下部にプロジェクトチームを発足させCBT化のための課題解決と実施方法を検討するよう答申した。

その答申に基づき試験のCBT化を具体的に検討することを目的として、2023 年 4 月にCBT検討委員会（以下、「本委員会」という。座長：青木紀勝　ビジオビコンサルティング代表）を設置した。本報告書は 2023 年 5 月～12 月に本委員会において検討された結果をまとめたものである。

2. 委員委嘱と開催概要

本委員会の委員を、試験委員会あるいは教育研修委員会の委員を務める5名の有識者に委嘱した。2023 年 5 月～12 月に4回の委員会を開催しそれぞれの議題について検討を行なった。

1）委員委嘱

氏名	所属
○青木 紀勝	ビジオビコンサルティング代表
阿部 和穂	武蔵野大学薬学部　教授
浦山 隆雄	公益財団法人日本薬剤師研修センター　特別顧問
大谷 壽一	慶應義塾大学医学部　病院薬剤学教室　教授 慶応義塾大学病院　薬剤部　部長
高柳 理早	東京薬科大学　薬学部　臨床薬効解析学教室　准教授
渡邊 伸一	帝京平成大学薬学部　薬学科　教授

（敬称略 50 音順、○：座長）

1）経緯の詳細は、「認定試験制度改革検討委員会検討結果報告書（2023 年 2 月）」に記載されている。
2）CBT: Computer Based Testing の略、昨今汎用されてきており、医学共用試験、薬学共用試験はもとより一部の国家試験にも用いられている方式である。

2）開催概要

開催回・日程	議題
第1回 5月29日（月）	1）レベルの均質化 2）出題数と試験時間
第2回 7月7日（金）	1）第1回委員会の振り返り（出題数と試験時間） 2）試験の実施時期・回数、期間 3）試験結果のフィードバック
第3回 9月8日（金）	1）第2回委員会の振り返り（実施時期・回数、期間） 2）試験の合格要件 3）MR認定証の交付要件 4）制度移行に伴う経過措置 5）試験科目名（MR総論）
第4回 12月5日（火） （最終回）	1）MR認定制度改革有識者会議の報告 2）新試験全体設計の確認（第1～3回委員会より） 3）今後の試験委員会の方向性 4）試験科目名（MR総論）

・いずれも1回2時間（17:00～19:00）の開催とした。
・第1回、第2回、第4回委員会には、CBT委託業者として（株）シー・ビー・ティ・ソリューションズ池野亮氏、三枝大輔氏、鎌田健介氏がオブザーバー参加をした。

3. 検討された試験案

1）試験の全体設計

検討された試験の骨格を下表にまとめた。

①合否判定方法		
IRT（Item Respose Theory）方式を採用		
②試験問題数と試験時間		
医薬品情報 60問（60分）、疾病と治療 70問（70分）、MR総論 60問（60分）		
③合格基準の公表と結果通知		
合格基準	合格基準スコア（仮称）の事前公表	
個人成績	評価スコア（仮称）による通知	
④実施時期/回数と期間		
時期/回数	運用初期段階	運用が軌道に乗った段階
	2～3回/年 6～7月頃、（11月頃）、2月頃	4回/年　四半期に1回 6～7月頃、8～9月頃、11月頃、2月頃
期間	平日5日間＋土日2回（合計9日間）	
⑤試験の合格要件		
連続する4回の試験内に3科目すべてに合格 科目合格は連続する4回の試験まで有効		
⑥移行措置		
現制度における科目合格は新制度下も初回受験年月より5年間有効		

①合否判定方法

IRT[3]方式では、各項目（問題）の特性を予め測定した後に受験者の能力を推定する。これにより受験集団の能力に関わらず一定の基準での合否判定が可能となることから、CBT 試験においてIRT方式を採用する。

②問題数と試験時間

第 28/29 回（2021/2022 年度）認定試験で出題された問題の項目特性値を分析し、試験の測定精度を表すテスト情報量が必要値を満たすよう問題数を設定した。医薬品情報、MR 総論は 60 問とし、疾病と治療は学習範囲が広く他の科目より多い 70 問とした。なお、問題数には採点には用いない試行問題が含まれる。試験時間は、マークシート方式からCBT方式に変更されることから1問1分とすることが妥当とされた（現行試験は1問あたり約 1.1 分で実施）。

③合格基準の公表と結果通知

IRT方式を採用することにより合格基準スコア（仮称）を事前に公表し、受験者には受験科目の合否とともに評価スコア（仮称）を用いた個人成績を通知する。現行試験では受験科目の合否結果のみを受験者に通知しているが、受験資格が撤廃され学生等の受験も考慮し個人成績を通知する。

④試験時期/回数と期間

CBT試験に移行した運用初期段階では、試験の運用に関する様々な事柄を慎重に検証しながら試験を実施するため年 2～3 回の実施を検討する。試験期間は、利便性や企業所属以外の一般の受験者の存在も考慮し土日2回を含む連続する 9 日間とする。運用開始後に受験状況などを検証しニーズに応じて試験期間を見直すことを検討する。なお、受験日は受験者の希望により選択することが可能となるが、同一試験期間内同一科目の受験は1回のみとする。

⑤試験の合格要件

現行試験は年1回の開催であり最長で5年間で3科目に合格することにより合格証が取得できるとしているが、知識維持の観点から 5 年間とすることは適切ではない。年複数回の受験が可能となることから、連続する4回の試験内に3科目すべてに合格することを要件とする。科目合格は試験の合格要件との整合性をはかり連続する4回の試験まで有効とする。なお、科目合格の有効期間における受験、認定証保持者および有効期限内の合格証保持者の受験は従来通り認めないこととする。

3）IRT：Item Response Theory 項目反応（応答）理論の略、項目（問題）に対する反応（解答）の結果から能力を推測する。

⑥移行措置

現行試験（2025 年度まで）における科目合格は初回受験年月から 5 年間有効としているが、制度移行が対象者の不利益変更とならないよう配慮し現行試験における科目合格は引き続き初回受験年月から 5 年間有効とする。これに従い現制度下の科目合格が1科目あり 2026 年度以降の新制度において 2 科目の合格を必要とする場合、現制度における初回受験年月から5年以内、かつ新制度下で受験する 2 科目を連続する 4 回の試験において合格することが要件となる。

2）問題プールの作成

今後の問題プールを拡充するため第 31/32 回（2024/2025 年度 ）認定試験において作成される予備問題を中心に問題を精査し試行問題とする。なお、CBT化によりテキストの同一箇所から複数の問題が選定されることを避けるため、テキストを節・項/コアカリなどを考慮して細分化し、細分化された出題区分を用いて問題を管理していくことが必要となる。

3）試験科目名（MR総論）

MR総論[4)]は、MRの使命と役割、医薬品産業、倫理、法規、医療関連制度、PMSの全6章から構成される。MRの記載は一部であり医薬品産業、法規、制度等の事項が多くを占めているため、受験科目名から試験範囲がある程度想起されるよう科目名を検討した。試験名にMRという用語が含まれており科目名からMRを除いてもよい、薬剤師資格者が受験する科目であり薬剤師国家試験の範囲にはない医薬品産業という表記を含めるなどの考えから、「医薬品産業と法規・制度」とする案や科目名に「倫理」を含めることなどが検討された。

4. 今後の試験委員会の方向性

1）新試験（CBT開始）準備委員会の設置（2024、2025 年度）

2026 年度に初回CBT試験を実施するためIRT方式による合格基準スコアの設定など試験要項の詳細を今後検討していく必要がある。これらに対応するため現在のCBT検討委員会を発展的に改組しCBT試験を具体的に運用するための検討、準備を目的として 2024/2025 年度の2年間、新試験（CBT開始）準備委員会（仮称）を設置する。

4)平成8年MR研修テキストでは「医薬品概論、倫理・法規・制度」として刊行された。

2）新試験制度における試験委員会の役割（2026 年度～）

現行の試験委員会は 2025 年度末をもって一旦解散し、2026 年度から新試験制度下における試験委員会を発足する。CBT試験運営全般の監督、試験問題の作成、IRT関連事項の大きく3つの役割を担う試験委員会とする。CBT試験の運営全般に関しては事務局を指導・監督し、IRT関連事項としては合格基準スコアの作成、項目特性値の評価・問題管理などが挙げられる。

以　上